

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当苑、独自の理念はあり、その人らしく暮らし続けることができるよう支援しているが、地域密着型としての理念はできていない。	○	地域密着型サービス理念を創りより地域に密着したGH作りに取り組んでいきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	当苑の介護理念にそって全職員が介護ケアの実践に取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム運営理念や役割が家族や地域の方に理解してもらえようパンフレットやホーム便りなどを活用し取り組んでいる。	○	今年になって周囲に家が続き続きにできているので、GHを理解していただけるよう取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方が犬の散歩や運動などで苑の側に通るかかれた時など、気軽に挨拶をかわしている。	○	周囲に家が少なかった最近になって徐々に増えつつあるので日常的付き合いが出来るようにしていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会などは参加していないが、年1回の文化祭には出品したり見学にいつている。	○	地域の一員として、地域活動に参加できるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着型の計画不十分の為活動ができない。	○	運営推進会議を充実させて地域ぐるみの活動をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義は理解しているが、中には評価が活かさない事もある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っているが内容の充実ができてなく、サービス向上には至らない。	○	会議の中で評価を報告し委員の意見を取り入れ、取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が事ある毎に本庁や総合支所に出向き、相談し連携を取っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時家族などにその都度情報を提供している。	○	新人職員には学び機会を作り、同時に全職員もより理解を深めるように取り組んで行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は無いが常に注意を払いながら防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時充分な説明を行い理解していただけるように努めている。又、不安、疑問点はないか尋ねて納得していただけるよう図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から不満の声や苦情が聞かれたときは速やかに管理者が運営者に相談し必要時は直接相談出来るように取り計らっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・職員は各ユニットほぼ固定されており、異動はほとんどない。・健康状態については来苑時や利用者の方の用件で連絡とったときなど必ず報告している。・金銭管理については各利用者の出納帳があり買い物や病院受診、その他すべてにおいて記載し、管理者が定期的に点検し家族への説明及び出納帳、領収書を渡している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方から不満の声を聞いたことはないが、いつでも気兼ねなく意見や苦情など申し出てくださいと来苑時などでは声かけるよう心がけている。又、玄関には意見箱を設置し、家族からの声が聴けるように努めている。	○ 家族の方々にとってはお世話をしてもらっているからという思いがあり、もしかしたら遠慮されている所があるのではと考えられるので、今後も今まで以上に家族との関わりを通じて率直な意見や不満が聴けるように取り組む必要があると思っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の合同カンファレンスや機会がある毎に意見や提案を聴き、反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診時、家族が無理な時は苑で対応している。出来る限り要望にこたえられるよう努力しているが介護度の重い方がおり、全ての要望に対応することが難しい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットごとの介護計画に沿って実践していく為に異動は行わず、日々悪化する利用者の介護サービスに合った支持などを出して、指示指導を行う。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や講習については時間の許す限り参加を各人していただいています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員については、なかなか時間的に困難ですが事務長や施設長は同業者と交流をもっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会はあるがシフト性の為、その他のストレス軽減の機会を作る計画はなかなかではあるが、年に2～3回、ビアガーデンや交流会を計るように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員個々の努力や実績勤務状態の把握は出来ていると思うが、向上心を持って働けるようには努めていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	散歩時や時間に余裕がある時は出来る限り本人に寄り添う機会を作り、不安や不満など率直な意見が聴けるように努力はしているが、まだ充分ではない部分もある。	○ 利用者の方によっては、介護する時間が長く必要な方も数人おられるため、一人ひとりとしっかり寄り添ってゆっくりした時間を取る余裕が無い事がおおい。どうしたらゆっくりとした時間を創りだせるか職員間で話し合いながら取り組んでいきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	3ヶ月、6ヶ月のケースカンファレンス時は必ず意見を求めるようにしている。それ以外にも来苑時など声掛けし何か不安なことや相談事はないですかと聞くように努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時はケアマネが良く話を聴き、管理者と相談上、必要としている支援を見極め対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者の方々と馴染みやすい機会を設けながら本人がどう関わっておられるかを見極め、家族などと相談しながら早く馴染みの関係が出来るように工夫をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方々一人ひとりを家族の一員と思い一緒に過ごし喜怒哀楽が共に出来るよう努めている。又、人生の大先輩であり、日常生活の中で学ばせてもらう事も多々あり、勉強になっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族によっては事情があり、余り深く関わりたくない家族もおられる為、全員の家族と共に支えあうということが困難である。又、家族によっては逆に何でも相談してくださる家族もおられ、親しみを感じられる関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事情のある家族への本人との関係に向けた働きかけは行ったこともあるが、良い結果を得ることはできなかった。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り馴染みの人、親しんだ場所との関係が途切れないように家族や地域の知人への協力が得られるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士の関係を見極め、利用者同士が支えあえるようなかわりが持てる様に支援しているが、育った環境が全く違っていることが原因で中には交わることが難しい方もいる。	○	交わることが難しい利用者への関わりをどう支援していくか、常に職員間で話し合うが今後も継続し、他の利用者との良い関係が築けるように支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には常に連絡を取り合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や担当学会議等に本人家族の意向を聞いている。散歩、台所仕事、ドライブ、洗濯物取り入れからたたみ方、洗濯物干し方、レクリエーション活動（ボール運動、パターゴルフ、トランプ）立位訓練、日光浴等。	○ 農道を散歩していると教え子の方が声をかけてくださり、本人はとても喜び話し込まれている。今後も続けたい。勝負事の好きな利用者は（勝つと笑顔が見られる）トランプ、パターゴルフなど今後も継続していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時、友人の面会時等に尋ねている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、一人一人の行動記録、ケアプランによる援助記録を行い朝、夕、ミーティング時に引継ぎしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族、担当者、看護師、管理者、本人、ケアマネジャーとカンファレンスを持ち、利用者本位の介護計画を作成している。月に1回のモニタリング、3ヶ月に1度の、短期目標についてのモニタリングを行い6ヶ月に1度家族を呼び担当学会議を開いている。	○ 帰宅願望のある利用者に対し、自宅付近までのドライブを時にはやってはいるが、計画性がないので今後は計画的に行って行きたい。（月1度のドライブ等）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	骨折により状態に変化が生じたとき見直している。家族には必ず後で同意書をもらい確認している。腰椎骨折後全ての生活リハビリ（米とぎ、畳の掃除、片付け、テーブル拭き）を中止し、定期受診、服薬管理、体重減少（主食をへらす）日光浴などに切り替えた。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日書いている。行動記録とプランの援助記録を書き、実践に繋げている。口腔ケア、水分補給、リハビリ体操、スクワット体操、嚥下体操等。	○	骨盤を強化し転倒を予防するスクワット体操はやっと全職員に定着した。今後も継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は多機能型ではない為、地域密着の共同生活介護しかできない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアによる毎月1回紙芝居 ・家族によるボランティア （犬を連れてきて抱っこさせている。） ・保育園児の慰問 ・文化祭への出品、見学 ・老人クラブから雑巾やタオルの寄付	○	地域資源との協働が維持できるよう取組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他のサービスの活用支援は行っていない。（地域外の利用者が多く、環境が変わること で精神安定が図れないのではとおもわれる）		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・包括支援センターとの空き情報などの情報交換をしている。 ・包括支援センター主催の地域全体を交えた会議には必ず出席し協働している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を重視。納得が得られたそれぞれのかかりつけ医がある。かかりつけ医には、気軽に利用者に関する相談をすることができる。 市立田野HP・野崎HP・高宮HP・早稲田HP 小村歯科医		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が重度化した場合は主治医に相談し、専門医への紹介をしていただき、家族への説明などをしていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日AM10:00、バイタルチェックを行い健康状態の把握をしている。何か異常を感じたときはすぐにバイタルチェックし、かかりつけ医に連絡をとっている。各ユニットに看護職員が従事しており、他の職員との連携を取り、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	1ヶ月間は猶予している。その後は家族と事業所との相談となっている。早期退院できるように相談はしているが、中々難しいところがある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期は現地点の方針では入院加療としている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化にそなえて、検討はしているが、緊急時の医師の確保が困難の為現地点ではできない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人に充分説明し納得のされた上で退居先へ安心して移れるように支援している。（その際、情報提供書をお渡ししている）		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重しプライバシーを損ねないような言葉や態度で配慮している。記録時必要な場合はアルファベットの頭文字や他利用者と記載することはある。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	時間がある時など利用者に寄り添い思いや希望を出るだけ引き出せるように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	バイタルチェック、おやつ後、健康体操や外気浴、散歩に参加していただいている。一人一人のペースを大切にしているが、午前中は利用者の方々との交流を図る為時間をいただいている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の方々の数人はほぼ自立されており、特に女性の方々は常に身綺麗にされている。男性の方には時々、アドバイスをしたりして支援している。理容、美容は家族が定期的に馴染みの店に連れて行ってくれる利用者もいる。それ以外の方々は家族の了解を得て職員が2ヶ月に1回の割合でカットをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り一人一人の好みを取り得れたメニューを考え、食材は四季折々の食材を使って目で楽しんで、味わっていただけるよう努力している。 又、利用者の力を活かしながら、食材の刻み、又盛り付けなど職員と共に楽しみながら食事の準備をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現状は当苑では、禁煙としている。アルコールを望む利用者の方には時には少量提供することで喜んでいただいている。おやつ（10時、15時）は果物、菓子など、様々なものを提供しているが喜んで食べておられる。飲み物は紅茶やココア、コーヒーを提供することもある。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意、便意が不明瞭で立位困難の方が2名おられ、アテント使用。リハビリパンツ使用している方が数名おられるが出来る限りパンツ内での失敗を避ける為、声掛けをし、夜間は時間誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	4名と5名にわけ、1日毎の入浴を実施している。午後2時から割りとゆっくりとしたペースで入浴を楽しんでもらっている。夜間入浴は実施していないが、利用者の方々に希望を尋ねることもあるが現在のところ夜間の希望は聴かれない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日のメリハリをつけて、午前中はリハビリ体操、後、天気の良い日は散歩をして過ごして頂き、日常の生活リズムをつけるようにしている。天気の悪い日は歌を唄ったり、ボール遊び、パターゴルフ、廊下での歩行運動をしていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者にあった役割（テーブル拭き、新聞紙を利用したちり袋作り、台所の手伝い、盛り付け、米とぎ、チリ袋の名前書き、たたみ、洗濯物干し、取り入れ、たたみ、食器の後片付け）をお願いしている。 トランプ遊び		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日中には利用者の方2～3人を伴って車で数分かけてスーパーへ預かり金の中からいくらか持たせて、買い物に行くこともある。	○	近隣にスーパーや買い物できる場所が無く困難である。持てる力を活かしてお金を持つこと、使うことの大切さを理解してもらえるように出来る限り支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全介助利用者が2名おられる為希望に添った支援が難しい。	○	家族の協力が得られる利用者に対しては出来る限り希望にそって、戸外に出かけられるよう家族との連携を取って支援したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	苑の行事として、春には桜の花見、秋には紅葉狩りをおこなっている。又、町の文化祭に出かける機会を作り支援している。	○	何人かの家族は利用者の方と出かける機会があるが、今後も継続できるように支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されればいつでも電話できるよう配慮している。（家族によっては迷惑がられる所もあるが、本人の希望を重視している。）		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るいきれいの中で、いつでも気軽に来苑していただけるよう努めている。（室内を明るく保ち、換気も適宜に行い観葉植物など置き、環境を配慮し工夫している。）		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず棟入口を施錠する場合には家族の同意を得て行っている。（夜間のみベッド柵を使用することを含めて）	○	目が離せない利用者がおられる為、一人一人の方を常に目配りが出来ない時もある為、施錠する機会が多い。日勤者が2名の時は出来る限り施錠をしない取り組みをしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害は理解しているが、開けていると一人で外出される方が2～3名おられ、やむを得ずかけている時がある。	○	出来るだけ鍵をかけないように取り組んで行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りしながら、利用者の様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐ取り組みはしている。但し台所用洗剤は台所にいつも出している。	○	利用者に応じて対応していきたい。（現在、そういう利用者はおられない）
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しやすい方、誤嚥しやすい方、離苑がある方がおり、特に目配りをし、事故防止に努めている。全員が服薬されている方ばかりの為、誤薬の事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本マニュアルを作成しており、常時対応できるように努めているが、定期的には行っていない。	○	急変や事故発生時にはどうしてもあわってしまうので定期的に訓練を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	火災時は、直通で連絡できるシステムをとっている。職員は災害対策の方法を身につけているが地域の人々の協力を得るまでには至っていない。	○	最近では周囲に家が増えつつあるので徐々に協力を得られるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者に必ず家族へリスクに関する説明をしている。又、3ヶ月、6ヶ月のケースカンファレンス等で家族に再度説明し話しあっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝、バイタルチェック（体温、脈、血圧）を実施し、状態観察を行い、本人にも体調を尋ね、健康管理、早期発見に努めている。又、気づいた際には再検等を行い職員間の情報を共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬に関する内容を理解し、職員間で常に情報共有し、症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちの方にはかかりつけ医に相談し、下剤の処方などをしていただき、又、日常の食生活には食物繊維を多くとるようにメニューに気を配り提供している。利用者によっては早朝に冷水を飲んでいただいている。冬場は風も無く穏やかな天気の場合は散歩に出かけている。夏場は、夕方散歩や苑庭（駐車場内）で歩行運動している。雨天の時は午前中ボール投げか廊下歩行運動を実施し予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守りや必要に応じて介助を行い、清潔保持に努めている。義歯消毒（2回／w・月、木）		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を配慮し食材をバランスよく使って提供している。又、毎食後は摂取量チェックし介護記録に記載している。水分補給は1日1500cc程を目標として提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルを作成しており、その都度対応出来るようにしている。インフルエンザワクチンは職員を含め全利用者の方々にも家族の同意を得、接種している。B棟ではインフルエンザに感染した利用者に対し、マニュアルに添って介護し実施した。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日、買い物し作り置きはせず、常に新鮮な物をしようするように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは広々としており、周囲に花もあり、いつでも気軽に出入り出来るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で居心地良く過ごして頂く様にテレビやCDラジカセは利用者の意向に合わせ音量を調整し、好きな音楽を流したりしている。季節感が出るようにその季節の花を飾って、楽しんでいただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自分の好きなところで自由に過ごせるようにソファを設置したり、畳の間でくつろいでいただいている。我が家のような家庭的な温かい雰囲気が出るように飾りつけ等配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や生活用品などを持ち込まれて いる。（籐のイスや、タンス、テレビ等）	○	利用者の方によっては何も持参されない方があ り、家族の面会時を利用し継続して声を掛けてい きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空気清浄機を設置しており、月1回のメンテナ ンスをしてもらっている。天気の良い日は窓を開 け、換気をしている。暑い時、寒い時はエアコン で温度調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	要所ゝに手摺が設置され、床はバリアフリーに なっており、安全に生活できる様に配慮してい る。夜間の照明はセンサー付きで可動している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室に大きな字で名前を貼っていても、間違っ て他の利用者の居室を覗いたりされるため、その都 度誘導し対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭はあるが、上手く活用できていない。風が強 い日等は風が巻き、ほこりがたち、過ごすことが 出来ない。	○	現在は玄関にベンチを設置し、外気浴したり、日 光浴したりしながらの会話を楽しんでもらいた い。今後中庭の活用を検討していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)